



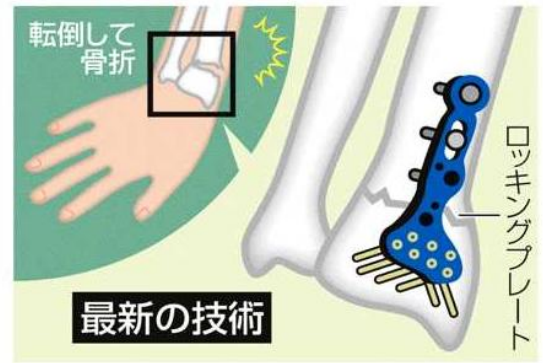
中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎052(961)2491

転倒して手をついて受傷する手関節(手首)の外傷として、「橈骨遠位端骨折」があります。性別を問わずどの年代にも起こりますが、高齢の女性に多い傾向にあります。

女性が年齢を重ねると、骨が弱くなる骨粗しょう症となり、脚の付け根や腰の骨折などが起こりやすいと心配されますが、もう少し若いうちから注意が必要なのがこの橈骨遠位端骨折です。毎日元気に活動的な生活を送る五十代や六十代の女性も、ハイキング中につまづいたり、自転車転倒したりして受傷し、今や必ずしも高齢者の骨折とはいえません。

お年寄りの骨折として扱われていた頃は、「手首が変形した」「痛くて動かせない」「力が入らない」などの後遺症が残ってもやむを得ないと考えられていました。しかし、五十〜六十代の女性は、まだ若く人生半ばです。近年は骨折の状態を詳しく評価することができるようにな

橈骨遠位端骨折



り、整形外科医、手外科医の治療技術も向上してきました。

ギプス固定などの安静治療、場合によっては最適な手術を行い、手の役割を熟知したセラピスト(リハビリの療法士)ときちんと訓練をすれば、痛みや変形、動きの制限をほとんど残さずに良好な手関節(手首)の機能を取り戻すことができます。

手をついて転んで手首が腫れたり痛みが続いたりしたら、必ず医療機関を受診し適切な治療を受けましょう。専門医はみなさんが健康で活動的な生活を末永く送れるように願って、毎日診療を行っています。

(中日病院名古屋手外科センター 長・中尾悦宏)

転んで受傷年代問わず